

練習の虫 視線の先はプロ

地元貫きチャンプへ

飛んで!! 10代

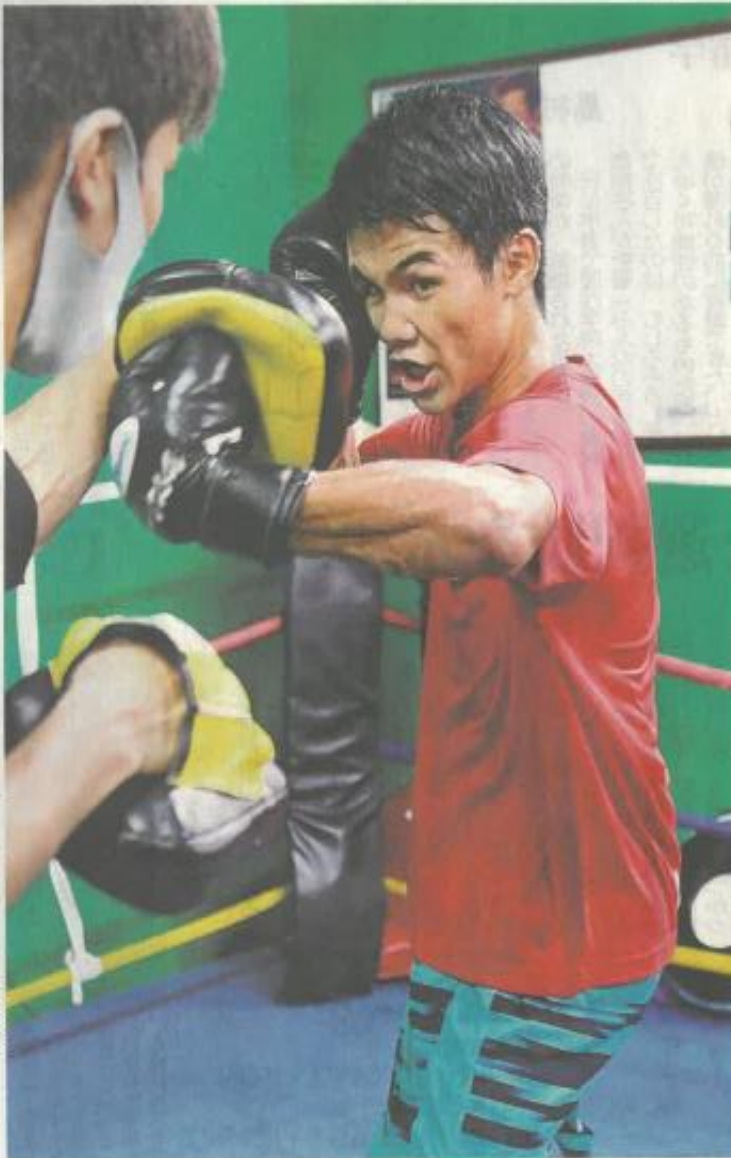
4 コロナ禍を越えて

ボクシング

泉川寛愛 (真志喜中3年)

練習の虫だ。真志喜中3 習はまををつかかない」と笑う。年の泉川寛愛(15)は、2019年度U15ボクシング57・5kg級の全日本チャンピオン。受験生のはずだがジムに夕方一番乗り、先でハンチをかきつけて鋭い練習の虫だ。好きな言葉は「練習は大人もあきらめない」。好きな言葉は「練習は大人もあきらめない」。

中学生離れした、非凡なセンスを感じさせる。はじめて小学生の時、テレビで比嘉大吾の世界戦を見て「カッコいい。自分もやりたい」と心を動かされた。両親は反対せず、「やるからにはチャンピオンになれ」と背中を押してくれた。近所のボクシングクラブアカサトに通い始める。



ミットに左ラックを打ち込む泉川寛愛。鋭い音がジム内に響く。| 宮崎県中大山・ボクシングクラブアカサト (黒田実成撮影)

3年半、夢を貫かない日はないと誓われ、多くの全国高校王者を輩出した沖縄だが、泉川は1998年の第1回全日本選手権で2008年の与那覇勇(いずれも沖縄)を最得意の切り駒かきながら、熱い気持ちで臨んでいく。

この状況に終止符を打ち、沖縄から再びチャンプに。泉川の目標だ。泉川は1998年の第1回全日本選手権で2008年の与那覇勇(いずれも沖縄)を最得意の切り駒かきながら、熱い気持ちで臨んでいく。

昨年4月、コロナ禍による最初の緊急事態宣言でジムが数カ月間閉鎖された。「ここでしっかり勉強し、100%の力で返す。以前よりも肩は強くなったと自負している。かつて「ボクシング王国」

視線の先にはプロのリングがある。お手本は一緒に練習している先輩で、日本ライト級10位の仲里剛(24)。「剛さんの、しっかり相手を見て放つカウンターの速さ、パワーがすごい」と目を凝らす。

そういえば2人のスタイルはそっくりだ。憧れの先輩を追いかけ、突き出す拳に迷いはない。

(宮野直) 水・土曜日掲載

いずみかわ・ひろあ 2005年9月、宮野市生まれ。真志喜中2年でジュニアチャンピオンリーグ全国大会U15の部57.5kg級王者に。身長174cm、右ボクサーファイター。戦績は5勝2敗。ボクシング以外に興味はないが、好きなミュージシャンはAK-69。